

受賞者のご紹介 (敬称略)

奨励賞 北海道地図株式会社

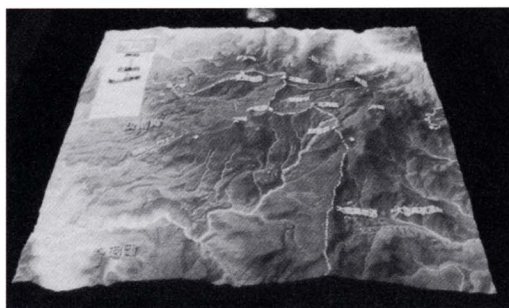
白地図(ホワイト模型)に植生や道路・河川・鉄道等を着色する従来の地図表現手法から立体画像をプロジェクターから投影してパターン・色等の変化に柔軟に対応し、広い視野にわたって立体画像を観察できる投影装置及び方法を開発した。

開発内容は次の4点となる。

- ①平面画像を投射することによって立体画像を見ることができる。
- ②平面画像の色やパターンを変えることによって異なる立体画像を見ることができる。
- ③模型を用いた全ての立体像の再生に応用することも可能となる。
- ④地理情報の立体画像化、顔を含む人体模型の立体画像化が考えられる。

地理情報以外にも人面シュミレーションや建築・自動車の設計等にも応用できる。また、地場のあらゆる産業に活用可能であり、特に建築・設計業のシュミレーションに導入することにより、顧客のイメージを具体化することが可能である。

博物館・美術館・空港等各業界での活用が見込まれる。



開発担当 中野 裕之

旭川市台場1条2丁目1番6号

TEL 0166-61-5531 FAX 0166-61-3300

奨励賞 グリーンテックス株式会社

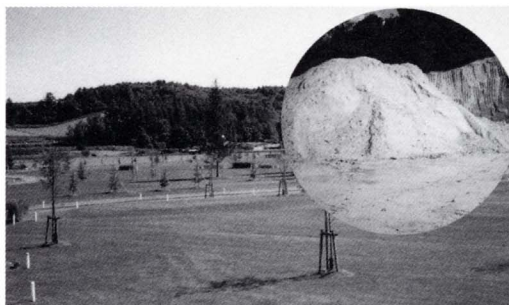
現在の公共工事では植生工事を手掛ける前に6～7項目の土質調査を行っているが、十分な土質診断とは言えず工事自体に手直しが発生するケースが見られる。

今回、土質調査を行う時点で15項目の診断項目に目標値を設定し、肥料や土壌改良材の使用量を算出することにより、現場土壌に見合った最適な植生緑化が可能になるよう「G-T-E-X植生土壌診断法」を開発した。

この診断法に基づき「土壌診断」→「土壌改良計画(肥料や土壌改良材必要量産出)」→「土壌改良施行」→「植生緑化工事」と一連の技術を駆使した施行を行う。

山林で腐葉土が1cmの厚さになるまでには200～500年かかると言われている。

この技術は、その土が毎年莫大に消費されている現状を踏まえ、自然が作ってくれた土の代わりに、汚泥や堆肥・火山灰・リサイクル材等を化学的根拠に基づき活用することを可能にした技術である。また、農地や家庭菜園にも利用されている。



開発担当 山口 英己

旭川市東鷹栖東2条2丁目

TEL 0166-57-2419 FAX 0166-57-3501

審査委員長賞 ベアーズマガジン

CD-ROMを活用した国内初の月刊誌を発刊した。

210円と手頃な価格で主要書店等のレジカウンターに設置される手軽さ及び大容量のCD-ROMの特性を生かした豊富な情報量が受け、情報提供者・販売店・消費者の支持を集めている。

掲載される情報も、官公庁情報やイベント、販売店情報等多岐にわたっており、動画も取り入れ豊富な画像とともにわかりやすく親しみやすいものとなっている。

タウン誌として「旭山動物園」シリーズや飲食店情報・地元行事等の記事を掲載している。



開発担当 藤 永 潤

旭川市神居9条4丁目1-17

TEL 0166-61-1935 FAX 0166-61-1935